

さようなら原発・核燃 3.11 青森県民集会報告集

目 次

さようなら原発・核燃 3.11 青森県民集会報告集の発刊にあたって	2
さようなら原発・核燃 3.11 青森県民集会プログラム	3
大竹進・県民集会実行委員長挨拶	4
藤波心さん(タレント)からのメッセージ	5
スペシャルトーク	
山本太郎さん(俳優)	6
鎌田慧さん(ルポライター・ノンフィクション作家)	8
リレートーク	
大間原発訴訟の会・大場一雄さん	12
あさこはうす・小笠原厚子さん	12
青森県農業者政治連盟委員長・鳴海清彦さん	13
花とハーブの里・菊川慶子さん	13
豊かな三陸の海を守る会事務局長・菅野和夫さん	14
福島県保険医協会事務局長・菅原浩哉さん	14
真宗大谷派僧侶・「福島子ども保養基金」代表・結柴依子さん	15
郡山から青森へ避難された鈴木昌平さん	16
集会アピール	17
追 悼 文	18
さようなら原発・核燃 3.11 青森県民集会ウォークコース	19
賛同団体・賛同個人名簿	20
新聞報道記事	21
青森県知事への要請・回答	27
さようなら原発・核燃 3.11 青森県民集会収支報告書	28
配布したチラシ	29
配布したアンケート	31
さようなら原発・核燃 3.11 青森県民集会アンケート結果	33

「さようなら原発・核燃3.11 青森県民集会」

報告集の発刊にあたって

さようなら原発・核燃3.11青森県民集会実行委員会

委員長 大竹 進

私たちは2012年3月11日に、多くの皆さまの協力をいただき「さようなら原発・さようなら核燃3.11青森県民集会」を青森市文化会館大ホールで開催し、集会に続くウォークも無事終了することができました。ご参加いただいた皆様、ご支援していただいた皆様に深く感謝いたします。この度、同県民集会の報告集を発刊しましたので、ご高覧いただき今後の運動にお役立ていただければ幸いです。

この集会開催に際し、「さようなら原発・さようなら核燃」をスローガンに実行委員会を結成し、幅広く参加を呼びかけた結果、87団体が賛同団体に名前を連ねて頂きました。

会場には1730名とかつてないほど多くの人に参加しました。これは、県民・国民の原発、核燃への意識が変化したことの表れですが、実行委員・賛同団体の「多くの人に集まって貰おう」との粘り強い活動の成果とも言えます。

集会に先立ち、私からは「青森県の原発と核燃施設を全て止め、そして撤去すること。子ども達の心の叫びに耳を傾け、経済よりも子どもの未来をまもる選択をすることが大人の責務。放射能汚染に苦しむ福島県民と連帯し、さようなら原発・さようなら核燃の新しい一步を青森県で踏みだそう」と訴えさせて頂きました。

また、スペシャルトークの俳優の山本太郎さんは「3.11の集会参加はいろいろな県からオファーがあったが、青森県が一番危険と思い青森に来た。核燃は日本中が青森に押しつけたもの。みんな解決していくしかない。そのためにも一人が10人に反対の声を広げよう」と訴えました。

もう一人のトーク者の弘前出身の作家の鎌田慧さんは「10万年経っても安全にならない核廃棄物を子孫に残すのは止めよう。無関心は罪だ。今日を運動の出発点にしよう」と力強く訴えられました。

その後のリレートークでは、青森県内外からお越し頂いた8名の方に、それぞれの活動や思いを訴えていただきました。農業者、函館、秋田、岩手そして福島から、それぞれの立場から感動的な報告や発言があり、会場は大いに盛り上がりました。集会アピールを採択し、震災があった午後2時46分には、震災・津波で亡くなられた方のご冥福をお祈りし、参加者全員で黙祷を捧げました。

その後・同ホールから青森県庁までの約2.5kmを1000名超がウォークし、最後に県庁を参加者同士が手をつなぎ、「脱原発・反核燃」の意志を込め『人間の鎖』で同集会を締めくくりました。

会場で参加者にアンケートを実施したところ約600名からの回答があり、報告集に掲載致しました。集会とウォークの成功にいっそうの確信を持ち、これからも核燃施設の撤去と脱原発に向けた運動を共に進めましょう。

さようなら原発・核燃3.11 青森県民集会

プログラム

12:30

開 場

13:00

■ 加藤登紀子さん（歌手）コンサート 福島集会ネット中継

13:25

■ 藤波心さん（タレント）ビデオレター上映

13:30

開 会

1. 開会挨拶

2. スペシャルトーク

■ 山本太郎さん（俳優）

■ 鎌田慧さん（ルポライター・ノンフィクション作家）

3. リレートーク

■ 県内外からの訴え

① 大間原発訴訟の会・大場一雄さん（北海道函館市）

② あさこはうす・小笠原厚子さん（青森県大間町）

③ 青森県農業者政治連盟委員長・鳴海清彦さん（青森県弘前市）

④ 花とハーブの里・菊川慶子さん（青森県六ヶ所村）

⑤ 豊かな三陸の海を守る会事務局長・菅野和夫さん（岩手県宮古市）

⑥ 福島県保険医協会事務局長・菅原浩哉さん（福島県福島市）

⑦ 真宗大谷派僧侶・「福島子ども保養基金」代表・結柴依子さん（秋田県にかほ市）

⑧ 郡山から青森へ避難された鈴木昌平さん（青森県青森市）

4. 集会アピール

14:46

5. 追悼式

14:50

6. 閉会

15:00

7. ウォーク（15:00～16:30）

コース：青森市文化会館→社会保険診療報酬支払基金（出発地点）

→ホテル青森→新町通り→協働社→青森県庁（県庁を人の輪で囲みます）

大竹進・県民集会実行委員長挨拶

大雪で足元が悪い中、「さようなら原発・さようなら核燃 3.11青森県民集会」に多数お集まり頂き、誠にありがとうございます。

3.11東日本大震災から1年が経ちました。地震・津波で亡くなられた方のご冥福をお祈り致します。また、被災され、現在も不自由な生活をされている皆様にお見舞いを申し上げます。



福島での原発事故は日本の歴史、世界の歴史を変えました。今までの技術がいかに未熟なものであるかを証明し、安全神話も一瞬にして崩壊しました。残された私たちができることは、青森県の原発と核燃サイクルを止めることは勿論ですが、すべての核施設を青森県から撤去することでもあります。核施設の撤去の技術、高レベル放射性廃棄物処理の技術は未だに確立されていません。撤去のために多くの人が集まって、知恵を出し、お金も出し合い、困難な道を切り拓いていく必要があります。

放射能・核の問題は、選挙権を持っている大人だけで決めることは間違いだと思います。今回の事故で子どもたちも放射能について学び、悩みながら、自分達の主張をしています。子どもたちの叫びに耳を傾け、経済よりも子どもの未来を守る選択をすることが大人の責務です。そして、子どもたちが原発、核燃問題に関心を持ち、子どもたちの物差しで判断し、子どもたちが大きな声を挙げることを歓迎したいと思います。

「さようなら原発1000万人署名」は青森県で15万人を目標にしています。引き続き、ご協力を宜しくお願いいたします。放射能汚染に苦しむ福島県民と連帯し、さよなら原発・さようなら核燃の新しい一步を青森県でも踏み出しましょう。

藤波心さん(タレント)からのメッセージ



さようなら原発・核燃3.11青森県民集会にご参加のみなさん、こんにちは藤波心です。

日本はいま歴史上、大変な危機に直面しています。この狭い国土に、この地震の多い国土に、気がついたら54基もの原発を建ててしまっていた。これは繁栄の象徴でも何でもなくただの時限爆弾のようなものです。もしまたどこかで大地震が起きて別の原発が爆発するようなことがあったら今度こそ日本は終わってしまうと思います。いつ爆発するかわからない爆弾と一緒に生活するなんて私は絶対にイヤです。日本が先進国の仲間入りをして世界をリードするにはこの道しかないと勝手に思っていた。いやそう思い込まされていたのです。日本の発展、経済発展のためにスーツを着て涼しい顔をして日本を破滅へ追いやる人がいます。実は日本の最大の敵は日本人の中にいるということが私は残念でなりません。日本滅亡のカウントダウンはもうすでに始まっています。でもそのことを多くの国民は全く気づいていません。もう私たちの国土に、第二の福島をつくっては絶対にいけません。私たちは原発によって支えられていたのではなく、何も知らない私たちが原発を支えていたのだと思います。私たちは今こそ立ち上がらなければいけません。みなさん、一人一人の力は大きな力に変わると思います。子どもたちの明るい未来、そして日本の未来を守って下さい。宜しくお願いします。

それでは「ふるさと」を歌います。

兔追いし かの山
小鮒釣りし かの川
夢は今もめぐりて
忘れがたき ふるさと

如何にいます 父母
恙無しや友垣
雨に風につけても
思い出ずる ふるさと

こころざしを果たして
いつの日にか帰らん
山はあおきふるさと
水は清きふるさと

ありがとうございました。